

♪・・・コンサート聴きある記・・・♪「アルプスに響くヨーデルとスイス民族音楽の夕べ」

演奏者：スイスアンサンブルエンツィアン

伊藤啓子：ヨーデル

新倉 恵：アコーディオン、エルガリ

原ひふみ：クラリネット、

ツィーゲンクロッケン

石川勝巳：チューバ、アルプホルン

5月20日（火）19：00 開演

文京シビックホール（小ホール）

■ホルンとクラリネットのアンサンブルでオープニング。途中、ホルンは奏者の手作り楽器ですとの説明がありました。ヨーデルの歌手が両手をエプロンで隠すようにして歌う姿は何ぞ？と思いつつ聴いていたら、コンクールでは女性はエプロンの中へ、男性はズボンの両ポケットへ手を入れて歌う

決まりがあるとのコメントでした。ついでに、団体名の「エンツィアン」とは、青紫色をしたリンドウのことで、グループのマークにもなっています。マーク



■演奏では木製のスプーンをカスタネットのように鳴らすもの。大きさの違うカウベルで音階をつくり両手で交互に振り鳴らすもの。遠くでカウベルが鳴り続けているような音が聴こえる、陶器製ですり鉢のような形をした器の中にスイスの5フラン硬貨を入れて回転させるもの、(スイスでは、ミルクを入れてかくはんしバターを作るために使っている台所用品)。エルガリ(ちょうどバンドネオンのような形状で、じゃばらの開閉で違った音を出すスイスアコーディオン)などの民族楽器が使われていて珍しさでも楽しめました。

■すばらしいアンサンブルでした。ヨーデル歌手の声帯のようにしなやかなリードが



会場での演奏風景（写真はエンツィアンより提供）

私の使っているアコーディオンに使われていたらどんなに素敵だろう。なんて思っていました。お話の中で、アンケートでは「カッコウヨーデル」が1番人気といわれました。歌い手とクラリネットがカッコウの鳴き声を掛け合うあの曲は、本当に幾度でも聴いてみたくなります。ベース役はチューバでした。アコーディオンであのように余韻のあるやわらかいベース音を出すのはとても難しいのです。音つくりの参考になる演奏でした。またスイスアコーディオンの演奏は始めてです。右上腕にベルトの輪を通し支えての演奏です。とても新鮮な一時でした。370席も満席でした。

■9月30日に兵庫県。11月3日（金）三鷹市でスイスの仲間たちとジョイントコンサートを企画しているチラシがありましたので、追ってニュースでお知らせします。

■今年が3年に一度のスイス全国ヨーデル大会の年で前回に続き今年も参加が認められたので6月に行ってきますと挨拶されていました。きっと今年も本場のスイスで大歓迎を受けることでしょう。

文：乙津

□問い合わせ先

スイスアンサンブルエンツィアン

E-mail：enzian@zas.att.ne.jp

TEL：090-9151-8600（エンツィアン事務局）

